

あじさい Vol. 5

〒650-0013 神戸市中央区花隈町33番19号 Tel. (078) 351-0657 (代表) <http://www.kobe-kango.ac.jp/>



第一学科閉科にあたり

社団法人 兵庫県民間病院協会 神戸看護専門学校
第一学科 教務主任 山内 美千代

第一学科は昭和52年から看護師育成を行い、今年31回生の卒業を迎えました。これまでに延べ1766名の学生を医療現場に送り出すことができました。

本学科の学生は、准看護免許取得後の就業経歴に幅があり、私が本校に就職したころには私より年上の学生も多くいました。人生の先輩として敬う気持ちと、教員としてかわるにはどうすれば良いか悩んだことも、度々ありました。そんなとき、ある学生が「もっと早くに看護師免許を取得したかった。でも色々な事情があり今やっと学校に来ることができた。年齢はいつているけど私も看護学生です。教員が年下なんて関係がない。看護師の先輩として尊敬している。」と、言ってくれました。学習以外のときには孫の話を嬉しそうにしているその学生が、常に教員には敬意をもった行動をされていきました。それからは、年齢は関係ない、すべて私の学生であるという気持ちでかかわっています。

から看護師免許を取得するには大変な努力と周囲の協力・理解が必要です。また、以前は体育祭・文化祭・看護の日「行事等、多くの学科外活動がありました。時間が無い中でこの行事運営は大変だったと思いますが、それにも参加し、学生生活を謳歌し卒業されて行きました。今、神戸の各々の民間病院で中心となって活躍している卒業生のことを聞くと、本校の教育理念にあった、「地域に根ざす看護師育成」に微力ながら関わったことにつれしく思います。

社会情勢の影響で、働きながらの看護師免許取得希望者が減少しているなか、今回歴史ある第一学科を閉科しなければならないことは、誠に寂しい限りです。しかし、本校の看護師養成が終了したのではなく、自ら感じ、考え、行動できる「看護師育成」は続きます。これからも、一人でも多く心やさしい看護師育成を行っていることと想っています。

また、本学科に入学し、看護師を目指しながら志半ばのまま諸事情で退学された学生も多くいます。その人たちの中で、再度看護師へのチャレンジをされている人たちがいることも報告させてまいります。

第一学科閉科にあたり～卒業生の言葉～

卒業して20数年が経ちました。働きながらの学業でしたが、同じ目標をもった仲間との存在とその状況を理解してくれる教務の先生方のお蔭で学生生活を楽しまれました。楽しみながらもそこで培われた強さが、家庭と業務の両立に加えて修士の通信教育を受けている現在の自分の助けになっていると思います。感謝です。

市立菅屋病院 木戸泰子(7回生)

私が卒業して、十数年が経ちますが学生時の思い出は、今でも鮮明に憶えています。なにしろ苦学生だった私は、今では想像もつかない程貧乏でした。しかも、勤務と学業の両立は大変でしたが、とにかく学校に行くのが楽しくて楽しくて仕方ありませんでした。朝まで看護とは何かと真剣に熱く語った事も沢山ありました。苦労した仲間は一生の宝物といわれるように学生時の友人は現在も家族ぐるみで付き合っています。

そんな思い出の詰まった第一学科が閉科してしまうのは大変寂しいですが、今は寂しさより感謝の気持ちで一杯です。最後になりましたが、学校長を始め各教務の先生方、本当にこれまでのご指導有難うございました。これからも私達卒業生は、臨床現場 地域などで、今以上に活躍していきたいと思えます。

医療法人 寿栄会 有馬高原病院 石田祐樹(20回生)

私は、臨床を重ねてからの入学で幾つもの役割を持つての学生生活でした。辛い事や出来そうも無い事も周りの友人や先生方に支えられ励まされ乗り越えられた事が思い出されます。学習は勿論ですが、人の言葉や笑顔がこんなに大切であることを学べた事に自身の成長があったと思っています。

第一学科が33年間もの長い歴史に幕を閉じると聞いたときは非常に残念に思いましたが、歴史ある学校の卒業生として、今後も人間としての成長が自他共に出来るよう邁進していきたいと思えます。

医療法人社団 医仁会 譜久山病院 安藤たかえ(23回生)



第一学科 3年生の声

◆いつも一人だと思っていたが周りの仲間を支えられているのを実感し、人に感謝するようになり人を大切にする事を学びました。(浅野千晶)

◆「継続は力なり」何事も続け、つなげていくこと、それが大切だと学ぶことができました。(池田由紀)

◆3年間振り返ってまず思うことは、「喜怒哀楽の豊富な3年間だったなあ」です。看護学もそうだけどそれ以外をよく学びました。(石合伯子)

◆この3年間で一番学んだことは、患者さんは、一人の人間であるということ。(今井恵里)

◆学校と仕事の両立は辛いものですが、学校生活は楽しかったです。実習では、メンバーと助け合いたくさんの学びがありました。(上田奈穂美)



◆看護師の免許を取得することを目標にして、勉強にはげんでもらうと同時に、人間に大切な心も養っていった下さい。(大前まい)

◆この3年間は、看護学・精神・人に対する思いやり・助け合う心と言った、自分を見直し自分を知る学びの所でした。(岡本静美)

◆泣いて、笑って過ごした3年間。大変な毎日だったけど、ここで得たものは、とても大きく、一生の宝物です。(柏井奈緒)

◆特に実習、ケースは辛く大変でした。しかし乗り越えられたのも教員や仲間のおかげです。仲間の大切さを学ぶことができました。(下坂美樹)

◆看護者である以前に、人として大切なものを多く学ぶことのできた学生生活でした。今まで関わりを持ってきたすべての人に感謝します。(高橋里佳)

◆あつという間の3年間、時間を有効に使って下さい。(武田英子)

◆この3年間、辛いことや楽しかったこと沢山ありました。この経験が自分を成長させてくれるんだと思います。(谷石麻美)

◆人生の中で一番辛くしんどかった3年間でした。しかし、多くの人と出会い人として成長できたような気がした3年間でした。(中島晋悟)



◆継続して最後までやり抜くことの大切さや素晴らしいさを学びました。学業・仕事・子育ては大変だったけれど意義のある3年間でした。(瀬井智会子)

◆なかなか自己と向き合えず失敗も多く、楽しかったこと、つらかったこともあったけれどここで学んだことを大切にしていきたい。(平松郁美)

◆振り返ると長いようで短く濃い内容だった3年間でした。教員の方々ははじめクラスのみんなに、感謝の気持ちで胸がいっぱいです!!(藤井絵里子)

◆看護師を目指し入学して、あつという間の3年間でした。この第一学科では人としての心の大切さを学ぶ事ができ本当に感謝で一杯!(藤井ゆかり)

◆辛かった実習中に、一緒に頑張っている友人と先生の支えがなければ、決して乗り越えられなかったと思う。ありがとうございます。(水摩陽子)

◆実習はしんどかったけど、自分と向き合い、振り返ることの大切さを学ぶことができました。(宮里友梨)

◆人間として成長するための、きつかけを沢山教えて頂きました。ありがとうございました。(山口雄一郎)

◆辛いことも楽しいこともいっぱいあった、

濃厚な3年間でした。ここでの学びを忘れず頑張っていきたいです。(湯谷文子)

◆後輩のいない学科は寂しいものでした。まだあると思っていた学生生活も、臨地実習を終えてみると早かったです。皆さんも頑張ってください。(八木千鶴)

◆この学校に来て、たくさんのことを学ぶことが出来ました。これからも学びを活かしていきたいです。(渡邊悦子)

◆神戸看護専門学校の第一学科では、看護と人として大切なものを学ぶことができました。私にとっては、大切な時間であり宝です。(左瀬由香)

◆学校に入学して辛い事も多く何回も泣いたり挫折しそうになった事もありました。でも頑張れたのは周りの友達への励ましのお陰です。(平井真子)

◆何事も、落ち着いて考えられるようになっていきました。本当に、ありがとうございました。(松下泰)



第二学科 激励会

12月24日に西校舎の講堂にて第二学科「激励会」が行われました。

3年生は1年近い実習を終え、国家試験に向けて、これから頑張る時期になっており、2年生はこれから始まる実習、そして、1年生は基礎看護学実習に向かっていきます。それぞれが「お疲れ様」「頑張ろう」のエネルギーをこめ、ゲームやクイズの楽しい時間を過ごしました。

文／和田知世



ケーススタディー

第二学科の2年生は、11月に全ての実習を無事に終え、一息つく間もなくケーススタディーに取り組みました。発表中には、受け持った患者様との出来事を思い出し涙ぐむ場面や、教員からの鋭い質問に戸惑いながらも真剣に取り組む姿が見られました。学生たちは、この発表を通して自分の行った看護を論理的・科学的に振り返ることが出来、臨地実習とは一味違う成長を実感できたようです。

文／細川順子



臨地実習指導者会を終えて

平成21年度臨地実習指導者会が、12月7日(月)13時半から本校の8階講堂に於いて開催されました。あじさい看護福祉専門学校学科長の糸賀暢子先生をお招きして「ポートフォリオを活用した臨地実習」のテーマで、研修会を実施しました。

実習施設からの参加者は62名。研修後のアンケートには、「何かとできる、できないで人を評価しようとするが、それまでのプロセスが大切であると理解できた」「今日の学びをスタッフみんなで共有し、未来ある学生さんと共に学びながら育てていけるように関わりたい」など研修を通して、学生の学びと成長を支える関わりについての意志を示すコメントをたくさん頂きました。

今後も学生の意志ある学びを実現し、コンピテンシーの向上を目指す実習指導の在り方について理解の輪が広がっていくことを願っています。

文／阿児 馨



実習施設交流会

平成22年2月6日(土)18時から神戸メリケンパークオリエンタルホテルで実習施設との交流会を開催いたしました。会には、22の施設・35名の方々がご参加くださいました。交流会では、実習施設の皆様から学校への期待や要望、実習や学生への思いなど聞かせていただくことができました。貴重なご意見・ご感想は、教員間で共有し、今後の実習につなげていきたいと考えております。

また、本年度をもちまして、当校で最も歴史のある第一学科が閉科となります。長い間、学生の教育にご尽力いただきました施設の皆様方、本当にありがとうございました。第一学科は閉科となりますが、これからも神戸看護専門学校は地域医療の担い手を育成してまいります。これまで同様、ご指導の程よろしくお願いいたします。

文／長谷川由香



教育理念・教育目的・教育目標

教育理念

本校は兵庫県下の民間病院の医療を担う看護者の育成を目的とし、医療安全に対する意識を高く持ち、自ら感じ考え行動できる専門職業人の育成を目指す。

看護はあらゆる健康状態の人々を対象とし、生涯を通してその最期までその人らしい生活を送れるように支援することである。

また、学生一人ひとりをかけがいのない存在としてとらえ、可能性を引き出し、その能力を最大限に発揮できるように支援する。

教育目的

本校は看護師に必要な基礎的知識・技術・態度を修得し、豊かな人間性を育み、倫理的価値観を形成し、兵庫県下の民間医療に貢献できる看護の実践者を育成することを目的とする。

教育目標

1. 生命の尊重と人間愛を基礎とし、相手を思いやる豊かな人間性を養う。
2. 人間を統合的に理解し、看護を必要とする対象に対して、根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
3. 看護職としての役割と責任を認識し、保健医療福祉チームの一員として社会に貢献できる基礎的能力を養う。
4. 自らの意志で学び、よりよい看護を探究する基礎的能力を養う。



本校を取り巻く状況 事務部

本校は今年3月に33年間に亘り准看護師から看護師を養成する第一学科(2年課程定時制)を閉科することになりました。また第二学科(2年課程全日制)も来年3月に閉科する予定です。本校としてはこの第二学科の閉科に合わせて第三学科(3年課程)を現在の40名定員から60名定員に増員すべく兵庫県医務課のご指導のもと増員のための計画書を提出しました。この計画書類の作成において最近の少子化と看護系大学の増加により果たして十分な応募者が集まるのか否かが大きな関心事でしたが、最近の雇用情勢もあつて昨年11月に実施した推薦・社会人入学試験も今年1月に実施した一般入学試験も共に前年比倍の応募者があり、ひと安心したところです。一昨年以来鈴木敏恵先生の「未来教育プロジェクト」の手法を本校の教育に導入しておりますが、今後とも皆さんに選ばれる学校を目指して行きたいと思っております。



(西校舎)



(東校舎)

同窓会からのお知らせ 同窓会会長 北中恵子

同窓会は、会員相互の親睦と看護界の発展に寄与していきたいと考えております。

今年3月をもって第一学科が閉科となりますが、同窓会としての活動は継続して参ります。

今後は、第三学科が中心となりますが、歴史が浅いため、引き続き第一学科、第二学科の同窓生で支え、学校行事に協賛していく考えですので、今後とも宜しくお願いします。

編集後記

春は別れの季節であり、新しい出会いや始まりの季節でもあります。繰り返す別れや出会いを成長の糧として行きたいものです。

さてこの度、第一学科が33年もの歴史を刻み閉科となりますが、羽ばたいていった息吹がたくさんの病院で息づいていることでしょうか。引き続き我が校は、卒業生・在校生・教職員一人ひとりが、あじさいの精神を大切に、新たな歩みを進めて行きたいと思えます。

これからも皆様のお知りになりたい情報の提供ができますよう、またこの広報誌「あじさい」がお役に立てるよう努めていきたいと思えますのでよろしくお願いいたします。

広報委員 黒田葉子



あじさい 第5号

発行日 平成22年3月5日

発行所 社団法人兵庫県民間病院協会

神戸看護専門学校

発行責任者 松田 功

印刷所 有限会社 河里盛広館